



みせん

瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第73号

発行日
平成30年9月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| P2：公募観察会①〔要害山～紅葉谷～大元〕
アンケート結果 | P10：公募観察会②〔鳥居周辺干潟観察〕
アンケート結果 |
| P4：入浜池補足調査② | P12：厳島神社前海浜清掃作業 |
| P5：自主観察会(3)島外調査 岩国城山 | P13：自然公園クリーンデー清掃作業
投稿記事 |
| P6：ミヤジマトンボ生息湿地清掃作業 | P14：お知らせ、編集後記 |
| P7：環境省研修会（坂本京子気象予報士） | P15：事務局連絡事項 |
| P8：入浜池定点観察②・維持管理作業② | |
| P9：包ヶ浦海岸清掃(昼食：焼肉懇親会) | |



「紅葉谷から大元公園へのあせび道を散策すると巨大かすが・・・」

右左巻きの不思議さ：調べてみると、「つる植物の巻きつき方の呼称に関して、昔は主観的表現が主流であったが、現在では客観的表現にほぼ統一されている」とのこと。私は最初に左巻きと思ったのですが？さて （写真：麻生 5月12日公募観察会）

公募観察会①春の新緑と 歴史の宮島ウォーク

日時：5月12日（土）9：30～15：00

天候：晴れ

行事推進委員：黒木 佐渡

歴史・神社：佐藤、中道

施設・石造物：末原

植物：小林みどり

参加者：麻生 今田 岩崎 小方（嗣） 小川

川崎 黒木 小林ペア 佐渡 佐藤 末原

田中 兎谷 中道 野呂田 増田 舩田

三戸 村上 元広 以上 21 名

環境省広島事務所：山崎自然保護官

公募参加者：28 名

朝 9 時半、棧橋前藤棚下へ合計 49 名集合。環境省山崎自然観察官、村上会長のあいさつに続き、小林観察部会長からのコース説明を受け、9 時 40 分に出発した。

午前中は、佐藤会員のガイドにより、下記の順番通り観察会が行われた。①棧橋前の誓真釣井 ②要害山 ③大東富くじ場跡 ④不動堂 ⑤宝寿院 ⑥北之神社 ⑦ここでは末原会員による「紅葉谷川庭園砂防」についての説明を受けた。⑧四宮神社(たのもさん)で、佐藤会員の午前中最後のお話を聞き昼食。

②の要害山の前に「仁王門」へ立ち寄り説明があったことを追加しておきます。

それぞれの史跡及び神社寺院について佐藤会員の丁寧かつ分かりやすい説明が行われ、参加者全員熱心に聞き入っておられた。



昼食場所の《たのもさん》広場の意見に半夏生が芽を吹き紅葉の木には赤い実が美しくそよいでいたのが印象的でした。



午後からは、「あせび歩道」をたどりつつ、小林みどり会員の解説による植物観察会が行われた。途中展望台にて小休憩、水分補給を取り、大元公園へ向かった。



大聖院前にて末原会員による「白糸川砂防」についての話しと自由観察が行われた。多宝塔の丘を経て大元公園に入り、そこでは中道会員の厳島合戦についての歴史解説が行われた。



その後、大元無料休憩所へ向かい予定の時刻に無事到着し、アンケート用紙を回収した後、3時に解散した。

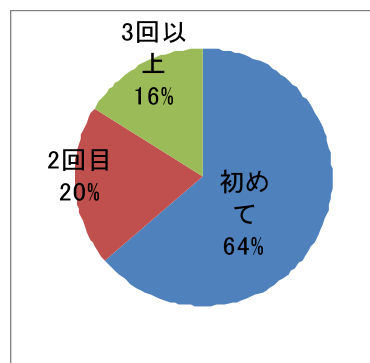
今回の公募観察会は はつかいち美術ギャラリーの地域交流プログラムの一環として共催で行われた。

「絵画で国立公園めぐり」絵画展会場には会の活動を紹介するパネル展示、ポスター・チラシでの行事告知、また当日は学芸員の方の参加など協力を頂いたことに感謝いたします。

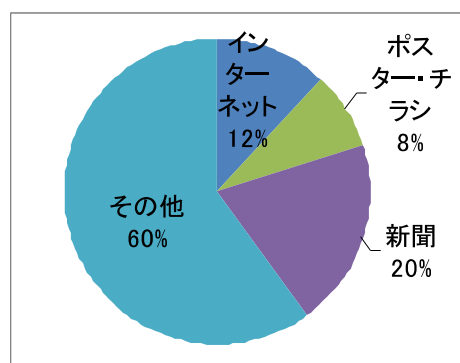
【俳句】

- ・ 潜り来し藤の古木の縄のれん
- ・ 古戦場の池に交尾の井守かな
- ・ 修学の生徒と蛇がばったんこ

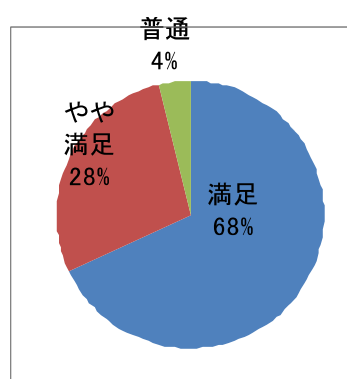
(文・俳句：黒木 、写真：麻生)



【観察会参加回数】



【行事を知ったのは】



【行事の感想】

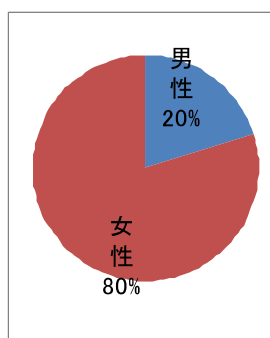
・ 初めて歩いた所ばかりで良かった。また、違った宮島発見。今後も続けて。時間をたっぷりにとって！ゆっくり見学出来て良かった。

・ 初めての道を歩いて良かった。また自然の森の初めての道を歩きたい。

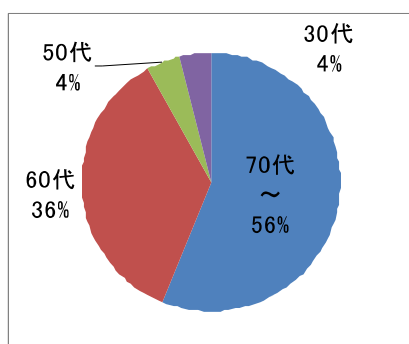
・ とてもいいですね、very good! 資料がもっとあるといいですね。度々開催ください。

・ 分かり易くて良かったです。毎年開催されることを望む。よく勉強されています。

アンケート結果



【参加者の性別】



【参加者の年代】

・又機会があれば参加したい。小さな疑問に丁寧に答えてもらった。説明が長すぎる場所もありました。

・すべてにバランスが取れていて初めての参加でも、とっても楽しめました。宮島新発見でした。

・色々説明して下さり解かりやすかった。

・講師の方たちは、いつも研究・調査されているようで感心した宮島にはよく来るが、知らない道を歩きとても新鮮だった。

・よかった。続けてください。楽しみにしています。

・声がよく聞こえて良かった。

・何回も来た宮島ですが、行ったことのない道や神社で詳しく説明されよかった。

・天気が良くいい運動になりました。知らなかった路を知れてよかった。歴史の一部・宮島独自の植物を知ることができた。

・各講師が専門分野を分かり易く解説下さりよかった。

・続けてください、四季の中で歩き学習したい。観察内容はよかった。

・来年も実施希望。出来れば春、秋2回。もう少し簡潔に説明して頂きたかった。

・事前学習をしていなかったことを後悔。違う季節でお願いします。全員に行き渡る説明をお願いします。

・テキストの大きさがまちまち、落ちやすく残念。イキイキ手帳の持参案内があればよかった。

・応募の返信が4日前で心配だった。又参加したい。

・ハットスピーカーを使用されたらいかがでしょう。年齢で耳が少し遠いので。

(まとめ 舛田)

入浜池補足調査②

日時：5月19日(土)

天候：晴れ

場所：入浜池

行事推進委員：小川 松田

参加者：大西 小川 奥田 小林ペア 松田

以上6名

環境省広島事務所：大高下 AR

【植物】小林(み)会員

花盛りはホウロクイチゴ、テリハノイバラ、コナスビ、カタバミ、花の終りごろはイワタイゲキ、カキの花、サルナシの花。クマノミズキは蕾の状態でした。

特に印象的だったのは山の緑がとてもきれいでした。

焚き火をした後がたくさんあったのが気になります。何か対策はないでしょうか。

【水質】小川会員

今回は雨が降った翌日なので水量が多かった。

pHは山から水が流れているC'地点で5.9、中央地点で6.3、海側のB地点で6.9、塩分濃度は全体に低く、海水でも2.6%でした。

CODは全体的に汚れている。A、C、中央で8.0以上、伏流水が出ているC'は2.0でした。

【野鳥】大西会員

今回、確認できた鳥

カルガモ2羽、カワウ1羽、コチドリ2羽、ミサゴ3羽(巣が3か所確認できた)トビ7羽、コゲラ1羽、ハシボソガラス2羽、ヤマガラ1羽、シジュウガラ3羽、ツバメ1羽、ヒヨ3羽、ウグイス3羽、メジロ1羽、キビタキ1羽、スズメ3羽、セグロセキレイ1羽、カワラヒワ3羽、ホオジロ1羽でした。

今日は全体的に鳴き声が少なく、森の奥に入っているのではないのでしょうか。



【コチドリ】

コチドリ 2羽が、今年も渡って来てくれた。砂浜に打ち寄せられたごみを全く気にせず、走り回って、元気に餌を捕っていました。子育てが成功しますように！



コチドリ♂

会員を先頭に白山比咩神社横登山道を登ります。

花びらがプロペラみたいにねじれるテイカカズラの花筵を踏みながら登って行くと、宮島でいつも話題に上るミミズバイが早速出てきました。

カンザブロウノキ、イズセンリョウ、カゴノキ、室浜コースでお馴染みのアリドオシなど、宮島でお馴染みの植物が次々出てきます。

板根が立派なスタジイ。葉っぱがシイに似ていますが、ドングリの仲間ではなく、モチノキ科のシイモチ。両方ともに宮島にはありません。

中腹に差し掛かると足元には赤い葉っぱがたくさん落ちています。宮島ではシカの食害から守るためにネットで囲んでいるコバンモチです。枯葉がたくさん積もっているの、滑りやすいですが、根が地表に出て階段状になっているためとても歩きやすいです。



(サルノコシカケ)

自主観察会(3)

島外調査 岩国城山

日時：6月2日(土)

天候：晴れ

行事推進委員：北野、小林(み)、舩田

参加者：岩崎 大林 金山 北野 黒木

小林ペア 末原 兎谷 中道 野呂田

前田 増田 舩田 村上 横路 呼坂

以上 17 名

岩国城山は長く入山が禁止されたため、自然がよく保たれた自然林、自然休養林に指定されています。今回は植物中心です。

最初に、観察部長の小林会員の挨拶、リーダーの北野会員の「宮島との違いを見てください」という挨拶の後、参加者 17 名のうち 4 名はロープウェイで登り、13 名はリーダーの北野

枯れかけた桜は最後のお勤めとばかりにサルノコシカケをいっぱい着生させとても立派に目立っています。

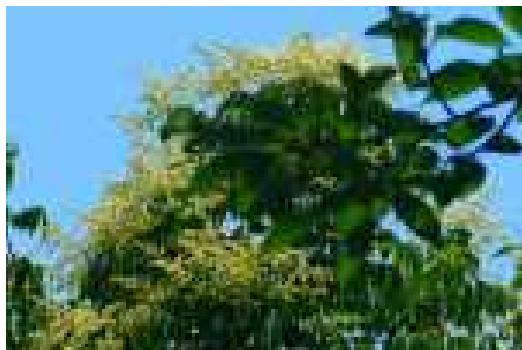
春の山菜として有名なコシアブラやタカノツメもあります。ネジキはアセビのようなつぼ形の花が満開です。

救荒植物で有名なリョウブは花穂に蕾がいっぱい付いていました。

学術的に注目されているキタノタマミズキの大木、晩秋ごろに黄色い実が見られるとのことです。大釣井(おおつるい)の周りには、太いツルが、木々の間をぬいながら龍が天に登ろうかとしているような存在感を見せつけています。フジの蔓です。美しい花の時とあまりにも違う雰囲気圧迫されてしまいます。その近くに、先ほど見かけたマムシクサとそっくりな花

が咲いています。背が低いのでカントウマムシグサのようです。

岩国城天守閣前の展望園地のすぐ下に、フシノハアワブキが咲いています。日本での北限、山口県でもこのみに生育している南方系の植物です。



フシノハアワブキ(1)



フシノハアワブキ(2)

沖縄ではヤンバルアワブキと呼ばれています。満開の時にこられて、とてもラッキーです。紅葉谷公園の方面に降りていくと、道路脇の斜面は見事な板状節理になっています。

葉の付け根の鍵が 1,2,1,2, と規則正しく、交互に繰り返すカギカズラは、蕾をつけています。

イシガキチョウが大きな葉の上に止まっています。ムサシアブミです。葉の下を覗くととても変わった花が咲いています。気をつけて見ていると、あちこちに結構あります。

道路に離弁花の白い花が、おしべと黄色い花粉を花卉にくっつけたまま、たくさん落ちていました。何の花かと探したら花の頃葉っぱが白くなるマタタビでした。



マタタビの花

晴れて暑くなるのではないかと考えていましたが、木々が頭の上で大きく広がり、まるで大きなプラスの雲の下を歩いているようで、とても気持ちの良い観察日とで、たくさんの発見がありました。リーダーの北野会員、参加者の皆様に感謝の1日でした。



(文：野呂田 、写真：岩崎)

ミヤジマトンボ生息湿地 清掃作業

日 時：6月9日(土)

天 候：晴れ

行事推進委員：川上、佐藤

参加者：今田 岩崎 小川 大林 川上 黒木

小林(勅) 佐藤 嶋谷 末原 田内 兎谷

中道 松田 元広 吉崎 以上 16 名

環境省広島事務所：山崎保護官 大高下 AR

前日まで雨天中止が危ぶまれたのが嘘のように雲一つない晴天に恵まれました。宮島自然植物実験所から宮島の某所に位置するミヤジマトンボ生息地まで歩いて移動したのですが、とても暑かったです。

生息地の湿地では、正直、レッドデータブックに載っているのが、嘘じゃないかと思うくらい普通にミヤジマトンボが飛んでいました。以前、環境系の部署に仕事でいたことがあり、ミヤジマトンボは写真で見たことはあったのですが、初めて目の前で飛ぶ姿を見ることができ、感動しました。

環境省の山崎保護官と松田会員からミヤジマトンボの説明を受け、世界でも宮島と香港にしか生息しておらず、汽水域で生息する大変珍しいトンボだということを知りました。

その後、清掃活動を行いゴミ袋5つ分もごみを集めました。

12時の昼食休憩後、ミヤジマトンボを観察したのですが、37番と39番のマーキングされているトンボが私たちの近くで止まってくれ、動かずによい観察と写真のモデルになってくれました。こんなに近くににいるのに携帯電話のカメラではうまく撮影できず悔しい思いをしました。次は、カメラを持ってきます！

帰りは、一部海岸を歩いたので時間が短縮され、予定より早く解散となりました。



(文：嶋谷 写真：岩崎、中道)

環境省主催パークボランティア研修会

「気象災害から地球環境を考える ～

いまさら聞けない天気のはなし～」

(坂本京子気象予報士 講演)

日 時：6月16日9:30～12:00 晴れ

場 所：宮島市民センター3階研修室

出席者：麻生 今田 岩崎 大西 奥田 恩田

川上 川崎 北野 河野 小林ペア 佐渡 島

嶋谷 末原 田内 兎谷 中道 平田 二神

穂井田 前田 舩田 松尾 松田 三戸 村上

森 山本(昌) 吉崎 呼坂 以上32名

環境省広島事務所：山崎自然保護官 大高下 AR

講 師：山口大学大学院創成科学研究所

気象予報士・防災士 坂本京子氏

坂本講師はNHK おはよう日本、朝5時からラジオなどでお天気キャスターを担当され、いまは故郷の山口県を拠点に活躍されています。



地震の話：地球の地図に地震のプロットした図ができました。プレートの境界にある日本はプロットで見えなくなりました。“日本は地震大国”、坂本講師は尼崎に住んでいたときに、1995年阪神・淡路大震災に遭われたそうです。私もそうですが、地震を経験していない人は稀だと思います。

地震で、閉じこめられたときは、音で伝える方法が良いそうです。

豪雨：短時間強雨が増加傾向にあるそうです。限られた場所に集中的なゲリラ豪雨。川の上流の豪雨が川下で災害を起こす、もらい災害。

雲は 10 種類。積乱雲と乱層雲が悪者。

雲を作る実験：ペットボトルに少量の水を入れて、加圧できるキャップで加圧し、フタを空けると、気圧の変化で霧(雲)が発生し、びっくりしました。



気候の変化：大雨による自然災害リスクが増大、干ばつリスクが増大、熱中症リスクが増大している。

「洪水ハザードマップで災害リスクを知る」や「身を守るため知識として、大雨の際の防災気象情報発信の流れを知る」ことが大切。洪水で道が浸水していると見えないマンホールや水路に落ちる危険があり、杖を使うことが有効。

台風：台風とは熱帯地方で発生し、風速 17m/s 以上。大きさは 15m/s の風の範囲。すべて風で決められている。北半球は左巻き、赤道の付近では台風は発生しない。

中国地方（広島）に被害をもたらす台風の進路はほぼ同じ。1991 年 9/27 19 号、1999 年 9/24 18 号、2004 年 9/7 18 号、2005 年 9/6 14 号の 4 台風は、長崎～山口県沖を通過して宮島などに風害・高潮被害を与えているそうです。気温：世界の平均気温の変化予測は、対策の有無で異なるが max4.8℃以上上昇する。

原因は、二酸化炭素（CO₂）、フロンガスなど。広島は温暖化で 3℃上昇して、鹿児島気温になるとのこと。日本の最低気温・41℃、最高気温 41℃と同じだそうです。

お天気&防災クイズ：熱帯夜とは？、冬日は？、真冬日は？

10 問全問正解は松田会員 1 名でした。私は 1 問間違いで、災害時の避難場所をコンビニにした

けど、ガソリンスタンドが正解でした。

感想：アナウンサーをされていたので声が良く、話の間合いが抜群。全員聞き入っていました。

（ 文：麻生 写真：大高下 AR ）

自主観察会(4)干潟公募観察会

(7/25)下見

日時：7 月 10 日 9：30～12：00 晴れ

場所：大鳥居周辺の干潟

参加者：金山 北野 小林ペア 佐藤 平田 前田 森 呼坂

**記事は 7 月 25 日の公募観察会のみとしました。下見の参加者は 7 月 25 日も全員参加です。

**

入浜池定点観察②・維持管理作業②

日 時：7 月 14 日 9：30～12：00 晴れ

場 所：入浜

参加者：今田 岩崎 大西 恩田 川上 川崎 黒木 河野 小林ペア 末原 兎谷 穂井田 前田 村上 元広 森 横路 吉崎 以上 19 名

◇維持管理作業***

水路はコンパネが 1 枚流されていたのを補修する。ゴミはこの大雨でペットボトルなどがたくさん流れていると思っていましたがそれほどでもなかった。





(文 : 末原 写真 : 岩崎)

◇入浜池定点観察****

【植物】小林(み)会員

山は緑一色で非常にきれいでした。花はカンコの木、すずやかなハマゴウの花、小さなコケオトギリの花、ヒトモトススキもたくさんの花を付けていた。そしてキウイフルーツを小さくしたようなサルナシの実など秋にはおいしく食べられるでしょう。

【水質】小林(つ)会員

今日は先日の大雨で水もかなり溜まっています。伏流水も思った以上出ている状態です。水温はA地点で28℃、C‘で21.3℃、PHはほとんど6.2、塩分濃度はほとんど0.00% F地点0.1%、CODは6~8以上、水路の流量は2mで5秒と早い流れでした。海水の塩分濃度は1.7%前回の調査は2.7%です。

【野鳥】大西会員

今回はあまり目ぼしいものは見られませんでした。この時期ですから親子のファミリーなどに会えるかと思いましたがそれもありません。キジバト、ウミネコ、ミサゴ、トビ、コゲラがよく鳴いていました。ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、夏鳥のセンダイムシクイの鳴き声、メジロ、スズメ、セグロセキレイ、イカル、ホオジロ、アオゲラのドラミング等。



7月14日 コサメビタキ 巣立ち の雛と思われる。(頭はまだ産毛、背にも産毛が残っている)活動を終了し、解散した直後に2羽で飛んできたが、その1羽



内は、2015年10月10日に入浜で確認できた成鳥。参考までに。

(写真 : 大西)

包ヶ浦海岸清掃 (昼食:焼肉懇親会)

日 時 : 7月21日 9:30~12:00 晴れ

場 所 : 包ヶ浦海岸

参加者 : 今田 岩崎 恩田 川崎 北野

黒木 五石 河野 島 末原 田内

中道 檜和田 二神 穂井田 舩田

村上 元広 森 吉崎 以上20名

包ヶ浦海岸清掃作業当時の天候は、もちろん「スーパー猛暑」。海風が吹くものの、砂浜からの日の照り返し厳しく、体感温度としては、おそらく体温を超える過酷な作業環境でした。

この猛暑は、日本のみならず米国やアフリカなど世界各地でも最高気温を記録しており、地球温暖化が原因ではないかと言われています。

このような異常気象だけでなく、生態系にも何か変動が起きるのではないかと危惧されます。

熱中症対策として作業15分間実施後、15分間休憩をとることとしました。また「午後から美味しいお肉が待っているぞ!」とモチベーションが上がり、作業者全員熱中症になることな

く、無事に作業を完了しました。

包ヶ浦海岸に流れ着いたゴミは、この度の西日本豪雨により海に流れ込んだと思われる流木が大量に流れ着いていました。



まだ瀬戸内海には、大量の流木等が漂流し、漁船のスクルーに絡む被害が出ており、一刻も早く通常の状態に回復することを切に願います。包ヶ浦海岸清掃のゴミ収集量は790kgでした。

午後から皆が待った懇親会の開始です。

活動を終えた清掃作業班は、一目散にBBQコーナーへと向かうと、既に炭に火おこしされており、加減も一番良い時でありました。

BBQ準備班の方に「感謝」！準備した数kgも1時間程で完食。疲労回復には、お肉が一番良いと改めて実感出来ました。早くも来年の親睦会が楽しみです。



(文：今田、写真：岩崎)

公募観察会 鳥居周辺 干潟観察「孫と楽しむ！ 海辺の生き物 in 宮島」

日 時 : 7月25日(水) 12:00~14:30

場 所 : 大鳥居周辺の干潟

天 候 : 猛暑の晴

一般参加者: 6組 (16名)

行事推進員: 金山 北野 平田 呼坂

参加者: 岩崎 金山 北野 小林ペア 佐藤 佐渡

平田 前田 舛田 森 呼坂 以上12名

環境省広島事務所: 山崎自然保護官

猛暑日が続く中での開催となり、暑さを気にされての欠席と開催日を間違えての欠席があり、申し込み当初25名(8組)の一般参加者は、16名(6組)となりました。表題のキャッチフレーズが功を奏したのか、前回5名(前々回13名)から一般参加者の数が大きく伸びました。

今回は前回と違って、集合会場(大元無料休憩所)での解説(説明)はカニを中心として短く、会場に設置した水槽でフジツボへのえさやりや貝類の水の浄化実験が行われました。えさのミジンコをスポイドでやる体験では、フジツボがパクパクと口を動かしているのを子供たちは目を輝かせて見ていました。



大鳥居周辺の干潟に出ると、子供たちは行事推進委員の方の説明を半分も聞かず、岸壁の石垣の間や干潟の浜にいるイソガニ、チゴガニ、

ハクセンシオマネキなどの個性ある動きの観察と捕獲を楽しんでいました。

スナガニの捕獲では、大人も子供も会員の一部の人も熱心に穴掘りをして、カニが出てきた時は皆さん歓声を挙げておりました。



干潟での観察の最後に、アラムシロ貝にイワシを食べさせる仕掛けをしていた場所に行き、骨だけになったイワシを見て、海の掃除屋さんの仕事ぶりに皆さん感心していました。

集合会場に戻り、最後のまとめに入る前に手足を洗いましたが、子供さんの半数近くは長靴の中まで海水でした。とても楽しかったのだでしょう。



今回は、観察中心でなく、直に生き物と触れ合う場面が多く、思い出に残る体験会だったと思います。また、大変暑い中での行事でしたが、体調を崩される方もおられず、安堵しました。

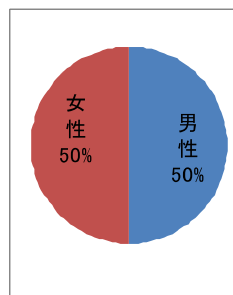
最後に、これだけの企画と準備並びに、当日の進行をされた行事推進委員の4名の皆様、中でも特に呼坂さん、皆様のご努力に感謝いたし

ます。ありがとうございました。

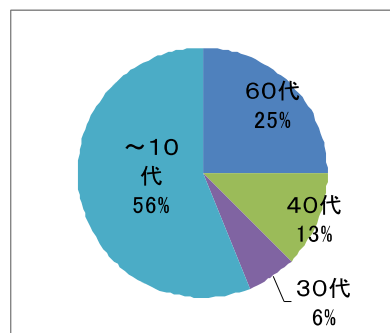
また、参加された会員の皆様、本当にお疲れさまでした。

(文：森 写真：岩崎)

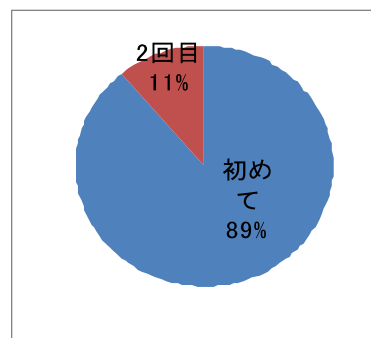
アンケート結果



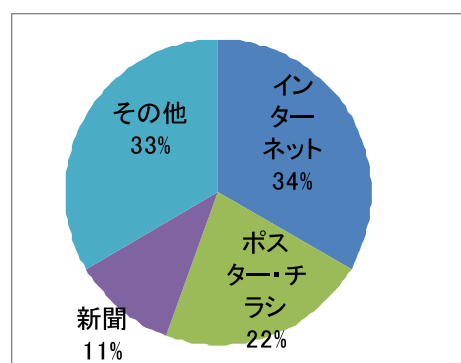
【参加者の性別】



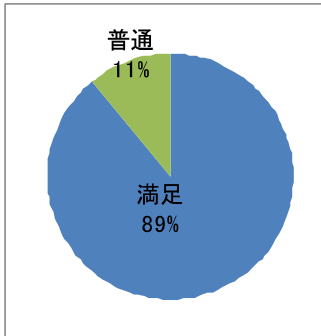
【参加者の年代】



【観察会参加回数】



【行事を知ったのは】



【行事の感想】

- ・フジツボがえさを食べる場所がおもしろかった。カニはにげるのがはやかった。
- ・生き物がすき。ちょっと暑かった。
- ・生物について好き。わかりやすかった。今後、魚の観察会や宮島の歴史の話を。
- ・貝やカニなどをつかまえて楽しかった。
- ・さかな・エビ・カニがたくさんすばしっこい。カニがすごくてびっくりした。
- ・暑い中であつたが、いろいろ気づかせていただきよかったです。また参加したいです。
- ・子どもはカニが好き。思っていたよりもたくさんの種類が見れた。またあれば参加したい。
- ・どこに何がいるか教えてもらえて、捕まえやすくて良かったです。最後にペーパーにまとめる時間があれば宿題がひとつ片付くのでありがたかった・・（ぐうたらな意見ですが・・）
- ・生き物を入れるバケツがあるとよかった。
（ まとめ 舩田 ）

厳島神社前海浜清掃作業

日時：7月27日（金）13:00～15:30

天候：快晴

行事推進委員：川崎、田中

参加者：麻生 猪谷 大林 河野 小林(颯)
佐藤 末原 中道 穂井田 前田 増田
森 山本(昌) 吉崎 以上14名

気温34度の猛暑の中、干潮時に合わせて神社前海浜清掃を実施しました。神社職員の方の指示のもと、境内の廻廊から大鳥居までのゴミ撤去を行いました。

今年もアオサはほとんどありませんでしたが、広島県にも甚大な災害をもたらした西日本豪雨で海に流出した木片やヨシの茎などが境内に大量に流れ着いていました。管絃祭(7月29日予定：後日台風のため中止となった)の準備が行われている御座船(管絃船)の周りもゴミでいっぱいでした。



廻廊下に潜って、ゴミを撤去することはなかなか大変でした。

熱中症の恐れもあり15～20分ごとに休憩をとり、神社の方から頂いた清涼飲料水などで水分補給をしながら、2時間余で作業を終了しました。

収集したゴミの量は2トントラックで約3台分でした。

御座船の船体回しが行われる場所など境内から大鳥居まですっかりきれいになりました。



また、参拝者の方から廻廊の上より「ご苦勞様！」の声を何度もいただき、氣力回復の薬となりました。これでアクセルを踏みすぎると熱中症など危険なので、抑えるのに苦勞しました。

作業終了後、社殿でお祓いをしていただきました。代表して大林会員が玉串を捧げ、皆さんで2礼2拍手1礼。

疲労感はあるものの、達成感のある一日でした。



(文・写真： 河野)



啓発活動は、棧橋前で来島者へゴミ袋を配布し、ゴミの持帰り運動と美化活動への協力をお願いしました。



清掃活動は、有ノ浦海岸、長浜海岸、小なきり海岸に7月の西日本豪雨による流れてきた漂着ゴミの収集と清掃作業を行いました。海岸に流れてきた流竹木やヨシ等の草木類、プラスチック等の収集量は815kgでした。

(文：末原 写真：岩崎)

「自然公園クリーンデー」 清掃作業

日 時： 8月4日(土) 午前9時～

行事推進員：兎谷、三戸

参加者： 岩崎 小川 恩田 黒木 小林(勸)

末原 兎谷 穂井田 前田 村上 森

横路 吉崎 以上13名

環境省 広島事務所： 山崎自然保護官

環境省及び廿日市市主催で行われた、全国一斉の美化清掃活動「自然公園クリーンデー」の清掃活動に参加しました。

当日は、酷暑のなか環境省広島事務所山崎保護官、廿日市市職員10名、宮島を美しくする会6名、市民2名、当会会員13名の合計32名が参加し、山崎保護官と廿日市市の野村宮島支所長の挨拶後、啓発活動と清掃活動を行いました。

****投稿記事****

もうひとつの弥山----- 町石探訪

投稿者 岩崎 義一

宮島の弥山以外にも近郊に 弥山があるのをご存知ですか。

岩国錦帯橋の北東にも弥山(別名阿品山 標高435m)があり、ここにも宮島と同じく麓からの参道に町石が山頂まで一基も欠けることなく20基が続いています。5月初めに町石調査に行って来ました。



山頂には弥山社があり、かつて3つの村----阿品、瓦谷、日宛の村境になっていて「阿品の弥山堂」「瓦谷の赤滝神社」「日宛の日宛神社」と三つのお堂がある。信仰の山として栄えた史跡が数多く残る。

町石は 麓の鳥居から一丁～十九丁と続き山頂に至る。(十六丁のみ発見できず) ただし町石間の距離は1丁(109m)ではなくマチマチ-----歩数で60歩～210歩です。

町石に彫られた仏像は、宮島では蓮華に乗る地藏像だがこちらは雲に乗った来迎地藏像である。麓の阿品集落にも数基の町石が守られている。頂上では 城山から瀬戸内海まで素晴らしい眺望でした。 宮島弥山に登る際にも70基余残る町石にも注目してください。



山頂町石

『宮島弥山町石めぐり』の HP もご覧下さい。

<https://blog.goo.ne.jp/miyapv04>

****お知らせ****+

日本植物学会公開講演会 のご案内

9月17日に宮島学園において公開講演会と島内でのエクスカージョンが実施されます。

この行事には宮島地区パークボランティアの会も協力しており、会員の皆さんの参加が可能です。

(申し込み方法 内容等詳細はメールで 8/19 ご案内しています)

◇ 編 集 後 記 ◇

7月6日夕から7日未明の西日本豪雨は今までにない広域被害でした。私の職場や知り合いの方も直接的や間接的に被害をうけました。

坂町の知人を訪ねてゆく道すがら、川の中にボールのように丸まった車の残骸がありました。車でこれですから人間はひとたまりもありません。また、その後は猛暑で“命の危険”の言葉が頻繁に使われるようになる中、厳島神社前海岸清掃に参加しました。適切な休憩&水分補給指示のもと、なんとか無事に活動できボランティア気分を味わいました。(麻生)

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方

環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455